東医大誌　54(1)：74～76, 1996

研究会報告

第36回
東京医科大学内分泌代謝研究会

日　　時：平成7年12月19日（火）
午後5：00～
会　　場：東京医科大学 本館6階 第2会議室
当番教室：産科婦人科学教室

1．チアプリド、スルピリド投与に伴うプロラクチン増加が閉経後の女性ホルモン分泌に及ぼす影響について（第一報）

（老年科）
加納広子，近喰　櫻，阿美宗伯，木暮大嗣，深谷修一，
杉山　壮，岩本俊彦，高崎　優

チアプリド（T）とスルピリド（S）を投与中の患者（症例1）において、プロラクチン（PRL)とエストロゲン（E）さらに副腎性ホルモンの分泌が増すため、Eの上昇はPRLによる副腎性ホルモンの増加が原因であると考えられた。またPRLにはアロマターゼ（E合成酵素）活性を抑制する働きがあると言われているが、Eの減少が起こらなかったのはPRLの濃度によりその抑制力に差が生じるためと考えられた。さらに同様の2症例を経験した。症例2ではせん妄に対してTの投与が行われた。投与中PRLとEは共に高かったが、中止後共に低下した。症例3ではうつ状態に対してSを投与した。投薬増量後に、Eは増加した。

2．当院で経験した甲状腺Plummer病の2例

（外科学第一）
中嶋英治，岩渕　裕，平野　隆，島谷英明，中村治彦，
斉藤　誠，小中千守，加藤治文

今回我々は甲状腺Plummer病の2例を経過したので報告する。

〈症例1〉　28才女性。検診で甲状腺右葉に結節を触知し、当院へ紹介となった。触診で右葉に3㎝大の弾性軟な結節を触知し、穿刺細胞診ではclassⅡであった。FT_3 4.7 pg/ml, FT_4 1.68 hg/dl, TSH 0.2μU/ml以下、TSHレセプター抗体0.0%, ^{123}Iシンチグラムで結節に一致してup takeを認め診断を得た。外科治療後の検査値は正常化した。

〈症例2〉　23才女性。近医で偶然頸部腫瘤を指摘され、当院へ紹介となった。FT_3 6.1 pg/ml, FT_4 1.14 hg./dl, TSH 0.2 μU/ml以下、TSHレセプター抗体1.2%、^{123}Iシンチグラムで診断を得た。外科治療後検査値は正常化した。Plummer病は甲状腺腫を有する患者の約2%にみられる稀な腫瘍である。発見にはわずかなホルモン値の異常も見逃さないことである。

3．原発性甲状腺機能低下症におけるCA19-9の意義について（第二報）

（老年科）
近喰　櫻，深谷修一，加納広子，桜井博文，
岩本俊彦，高崎　優

原発性甲状腺機能低下症（以下原甲低）の患者において、治療前に高かった血清CA19-9が治療後に正常範囲に戻ることが観察された。

そしてこの患者のルイス血液型（以下Le）がa型（以下Le^a）を示したことから、Le^aを来す原甲低の患者は、CA19-9が高値を示すのではないかと考えられた。今回原甲低の患者において、Leが(a+, b-), (a-, b+), (a-, b-)を示す症例を9例（平均年齢73歳）経験し、その内4例について検討した。Le^aの患者AとB、Le^aの患者Fは治療後に、またLe^bの患者G（甲状腺機能亢進症）は、メチマゾール投与中止後にCA19-9は減少した。以上によりCA19-9は甲状腺ホルモンの働きにより代謝されると考えられた。さらにCA19-9が高い場合、原甲低を疑い甲状腺ホルモンを測定する必要があると思われた。